

卒業制作展に110点

静岡文化
芸術大生 20日まで集大成披露

浜松市中区中央の静岡文化芸術大で15日、同大デザイン学部卒業展・同大学院デザイン研究科修士展が始まった。「ルビをふる」をテーマに、学生が集大成として制作した作品約110点を展示している。20日まで。

デザイン学部の作品はデジタル・サウンドや建築・環境など五つの領域に分かれ、多様な作品が並ぶ。プロダクト領域の学生は遠州綿糸(つむぎ)など都道府県ごとの特産の布を使って制作した日本列島や、富士山のシルエットを表現したアウトドアアチエアなどを出品した。

何色にも染まらない強く自立した女性を表現した黒いウエディングドレスや、学校を休むことへの罪悪感をなくそうと高校生向けに作った「おやすみ手帳」など、デザインを通して社会にメッセージを発する作品も並ぶ。会場で来場者が自由に「賞」を考え、印象に残った作品に与えられるようにした。実行委員会の乗松咲那さんに「(22)IIデザイン学部4年IIは「展示も企画も合わせて楽しんでもらえたら」と話す。入場無料。午前10時～午後7時。



作品を眺める来場者
＝浜松市中区の静岡文化芸術大